



校長室だより～湘南の空～

第 28 号

令和 5 年 11 月 20 日

11月6日（月）、本校41回生で美術部出身の画家廣田雷風（ひろた らいふ）氏のご尽力により、本校正門そばにある Mosaic mural「飛翔」の原画を本校図書館入り口並びの校章のある壁面に設置することができた。廣田氏は画材店の方と二人で安定した設置の方法を考え、最後は機械でなければ分からないほどの水平な固定が完了するまで6時間以上を要した。寄贈していただいた廣田氏に心より感謝を申し上げる。これを見る生徒のみなさんは未来の世界を自由に飛翔すると信じている。

11月9日（木）、対組競技の最後を飾る駅伝は、絶好のコンディションの中、選手、応援が一体となる素晴らしい大会だった。湘南らしい風を金沢八景に存分に吹き渡らせることができた。運動部連合委員会を始め、準備・運営した生徒、教員の皆さんに心から感謝したい。

湘南高校の特徴は仲間と自由にコラボレーションして高みを目指すところにある。生徒の皆さんの今後の挑戦を心より楽しみにしている。

湘南高校初代美術教師 塚本茂氏の遺作展 「やさしさに満ちた空気」

歴史館ギャラリーにて湘南高校初代美術教師、塚本茂氏の遺作展をご遺族の方々のご協力のもと開催している。

塚本氏は誕生したばかりの本校での美術教育に尽力され、美術部の指導ではその後日本の画壇で活躍した多くの人材に影響を与えた。また、塚本氏は美術教育者にとどまらず、その生涯の制作の中で画家としての価値が高く評価されている。明治に日本に本格的に導入された「油絵の具」という、西洋で発達した絵画制作の素材を、日本の風土や日本人の体質に合った表現素材として使いこなすことに精通し、近代洋画界を担った作家でもあった。今回は塚本家に保存された貴重な素描や小品と湘南高校収蔵の油彩画三点を併せて展示している。

塚本氏の作品には湘南の文化を育んだ「やさしさに満ちた空気」が溢れている。初代赤木校長が芸術に力を入れていたことはこうした作品からもうかがい知ることができるのではないかと。2024年4月12日（金）まで。

夏、障子を開けると川辺から涼しい風が吹き込んでくる藤沢の実家

私が所属する三浦半島の先端に程近い小網代にあるヨットクラブの元メンバー池田武邦氏（16回）が2022年5月15日98歳で逝去した。池田氏が海軍士官時代に乗船していた軽巡洋艦の名をとってヨットの名も「矢矧（やはぎ）」であった。池田氏は二十歳の時、マリアナ沖海戦、レイテ沖海戦、そして沖縄海上特攻と太平洋戦争後期の三大海戦のすべてに参戦し、生還。その後建築家になり、

日本設計を創立し、霞が関ビルを皮切りに京王プラザホテルや新宿三井ビルを中心となって設計。しかしある時期から超高層ビルの建設に疑問を抱き、長崎オランダ村やハウステンボスなど環境共生型のテーマパークの設計に携わった。その後は21世紀のあるべき日本の都市や建築を追求し、無償で地方の限界集落の再生や町づくりにも尽力した。

2013年12月6日に52回生の飯田一彦氏と大久保學氏が池田氏の自宅で話を聞いた際の記録が残っている。

【池田氏の話の概要】

- 1 リーダーは、どんな緊急事態、修羅場になっても動じない強さが必要。周囲は修羅場になればなるほど、必ずリーダーの顔を見る。その時にオタオタしてはダメだ。
- 2 日本設計では私より優れた建築家は何人もいたが、私が結局社長に推された。どうもリーダーとしての要素を評価してもらったからのように思う。
- 3 リーダーを作るものは、①技術知識に対する強い自信②苛酷な修羅場の体験③良き指導者の下での修練
- 4 私がリーダーとして成長できたのは、湘南中学での修練が重要な役割を果たしたように思う。初代の赤木校長が推進した様々な教育施策が湘南中学の学生を優れたリーダーに育てる上で効果を発揮したのではないか。
- 5 当時の湘南中学の教員は、個性的な人ばかりだった。それらの先生から我々はたくさんを学んだように思う。
- 6 赤木校長は戦時中だということに これからの日本は国際化が欠かせないとして、英語の勉強を大変に重視した。オーラルによる英語の授業はいつも大変にきつかった。
- 7 もう一つの特徴は、生徒の自主性を重視したことである。当時水泳の授業は、いつも江の島の入江で行っていたが、学校からあまりに遠いので、私の兄達の代が校庭に穴を掘ってプールを作った。その後この生徒手作りのプールで授業は行われた。赤木校長はこういう「規格外」の創意工夫や「規格外」の人間が大変にお好きだったと思う。
- 8 リーダーを育てる教育を実現してほしい。

池田氏が建築家を目指したきっかけとして「沖縄海上特攻で矢矧が沈んで海を漂流していた時、(いところが設計した) その藤沢の実家の風景が脳裏に浮かんだんだよ。夏、障子を開けると川辺から涼しい風が吹き込んでくるんだけど、その風を感じながらただ畳の上で大の字に寝転ぶのがなんとも気持ちよくてね。」(株式会社オカムラ『池田武邦／建築家 太平洋戦争から奇跡の生還を果たし』) 海をこよなく愛した池田氏の終の住処は長崎県の大村湾を望む茅葺き屋根の庵であり、その土地の気候風土にマッチした、より環境に配慮した建築として保存・活用され、日本や世界に示唆を与え続けている。

生徒の皆さんは、これからも目先の結果にとらわれず、応援してくださる人たちの笑顔や未来の社会を想像して突き進んでいただきたい。